

令和7年度 いなばメルヘン米コシヒカリ栽培こよみ



田植えは5月15日を中心に行いましょう
(中山間地は除く)

目標	1等米比率90% 食味値80以上 玄米タンパク含有量7.0以下
いなば農業技術者協議会	

生育のイメージ

理想的な苗 適正な植付深度 茎数25本/株

草丈 12~13cm 葉数 2.5枚 第2葉 第3葉 第1葉 第1葉鞘長 3.0~3.5cm 鞘葉

1cm植え 2葉 3葉 浅すぎると障害や浮苗になりやすい

3cm植え 2葉 3葉 1葉が見えるように植える

5cm植え 2葉 3葉 1葉が完全に埋まっていると分けつがとりにくい

土壌表面

茎数 19本/株 無効分けつ

穂数 19本/株 分けつの増え方(70株/坪)

【出穂期】 ほ場の40~50%の株で出穂した頃

【穂揃期】 ほ場の80~90%の株で出穂した頃 (出穂期の2~3日後)

幼穂長2mm 幼穂形成期 7/13頃

出穂期 8/5頃

成熟期 9/13頃

4月 5月 6月 7月 8月 9月

育苗期 田植期 活着期 有効分けつ期 無効分けつ期 幼穂形成期~穂ばらみ期 登熟期

最重点技術対策

- ・土づくりの徹底
- ・初期分けつの確保
- ・穂揃期の葉色確保
- ・適期病害虫防除の徹底
- ・出穂後の適正な水管理

水管理

水深スケールの有効活用

やや深水 活着後 浅水管理 (時々水を入れ替える)

溝掘り 中干し

中干し後~幼穂形成期頃 間断かん水

幼穂形成期~出穂期 飽水管理 (手溝の水が切れぬ程度)

出穂後20日間 湛水管理 (こまめに水の入替)

収穫5~7日前まで 間断かん水 (落水を急がない)

施肥

一発 土づくり 秋に散布が行えなかったほ場

側条 苦土 重焼燐30 中山間地等

全層 JコートコシヒカリS号・LPssコシヒカリL号 LP555-1号 化成肥料14-14-14 化成肥料14-14-14

・エスアイ加里らくだ・カリ投げくん 中間追肥

追肥3号※1 追肥3号 1回目 追肥3号 2回目

※1 出穂7日前の葉色が薄い場合(4.0未満)に追加施用する

肥料の施用量については 座談会資料等を参照する

土づくり

防除

農薬使用成分数 13成分以内

箱粒施薬 (は種時(覆土前)~移植当日)

本田除草剤散布 農薬注文書参照

畦畔等の除草 草刈運動期間 7月1日~10日

基本防除(粒剤)出穂5日前 (豆つぶ剤)穂揃期※2 (粉剤・液剤)1回目:穂揃期 2回目:傾穂期

※2 カメムシの多発が予想される場合は【粒剤・豆つぶ剤】の使用を避ける

栽培技術のポイント

○土づくり 土づくり資材や堆肥の施用を継続的に行う

資材名	施用量(kg/10a)
鉄入り元気Light	80kg以上
ハイタフ特号(粒)	100kg以上
ケイカル(粒)	100kg以上
けい酸加里	40kg以上

中間追肥省力型

カリ入り元気5号	80kg以上
有機加里入りシリカロマン2号	80kg以上

堆肥の種類 施用量(kg/10a)

醗酵鶏ふん	春 75~100kg 秋 100~150kg
牛ふん堆肥	春 1t 秋 1~2t
糞がら堆肥	2t

堆肥を春施用するほ場では基肥量で1~2割程度の減肥をする

○溝掘り・中干し

- ・溝掘りは6月上旬までに行い、随時手直しを行う(10~15条に1本程度)
- ・中干しは田植後4週間以内を目安に開始する

○中間追肥

- ・稲体の体質強化と倒伏軽減のため施用する(散布時期6月20日~25日頃)

資材名	施用量(10aあたり)
エスアイカリらくだ	10kg以上
エスアイ加里カリ投げくん	4kg以上

○適正な穂肥

- ・1回目: 幼穂形成期から7日後頃(幼穂15mm頃)
- ・2回目: 1回目から7日後

出穂7日前に葉色が薄い場合(4.0未満)は追加穂肥を施用

※出穂以降、過剰施用で玄米タンパクが高くなるので注意

○基本防除 斑点米の発生を防ぐため、適期に2回防除を徹底する

防除時期	薬剤名	散布量(10aあたり)	収穫前日数
1回目 穂揃期	粉剤 キラップ粉剤DL	4kg	14日前まで
	液剤 キラップフロアブル	75ml 水150L	14日前まで
2回目 傾穂期	粉剤 スタークル粉剤DL	3kg	7日前まで
	液剤 スタークル液剤10	150ml 水150L	7日前まで

防除間隔は7日間を目安とし、10日間以上あけない!!

【粒剤体系】出穂5日前頃・【豆つぶ剤体系】穂揃期

- ・『キラップ粒剤』: 3kg/10a (収穫14日前まで)
- ・『スタークル豆つぶ』: 250g/10a (収穫7日前まで)

水深5cm程度の湛水状態で散布。散布後7日間は落水しない

○随時防除

防除時期	薬剤名	散布量(10aあたり)	収穫前日数
出穂前	粉剤 ブラシン粉剤DL	3~4kg	7日前まで
	液剤 ブラシンフロアブル	150ml 水150L	7日前まで

○収穫・乾燥調整

- ・籾の黄化率85~90%程度で収穫する
- ・仕上げ玄米水分14.5~15.0% (過乾燥で食味が低下)
- ・異物、異品種混入に注意する

70% 80% 85% 90% 刈取り適期

育苗

4月 16日 22日 23日 24日 26日 29日 5月 1日 8日 15日

浸種(7~10日間程度) 浸種水温は10~15℃を7確保 浸種の積算温度100℃以上を確保

タフブロック 種子消毒 催芽 陰干し は種 搬出 (出芽期) (緑化期) (硬化期)→

育苗日数 (は種日も含めて19日間以内) ※ハウスの温度が25℃以下となるよう換気を徹底する 夜間も換気を行う

田植え